

## 第265回新潟循環器談話会

日 時 平成22年12月11日(土)  
午後3時～6時  
場 所 新潟大学医学部  
第5講義室

### I. 一般演題

#### 1 ビリルビンはHbA1Cに独立に関係する

小田 栄司

たちかわ総合健診センター

【背景】非糖尿病成人において、HbA1Cは空腹時血糖で補正しても心臓血管病と有意に関係するが、空腹時血糖はHbA1Cで補正すると心臓血管病と有意に関係しないと報告されている。一方、ビリルビンは強い抗酸化物質であり、血清総ビリルビン値の低い人で心臓血管病の発生が多いことが報告されている。

【目的】血清総ビリルビン値とHbA1Cの横断的関係を解析する。

【対象】人間ドックを受診して文書で研究に同意した男性2,500人と女性1,680人。

【方法】血清総ビリルビン値を従属変数とし、HbA1Cを含む心血管危険因子を独立変数とした多変量線形回帰、および、HbA1Cを従属変数とし、血清総ビリルビン値を含む心血管危険因子を独立変数とした多変量線形回帰を計算し、HbA1C  $\geq 5.2\%$  (最大4分位群)、および、HbA1C  $\geq 5.4\%$  (最大10分位群)を従属変数とした血清総ビリルビン値を含む心血管危険因子のオッズ比を計算した。

【結果】男女とも、HbA1Cは、他の心血管危険因子と独立に血清総ビリルビン値に関係し、血清総ビリルビン値は、他の心血管危険因子と独立にHbA1Cに関係した。男女とも、血清総ビリルビン値は、他の心血管危険因子と独立にHbA1C  $\geq 5.2\%$  (最大4分位群)、および、HbA1C  $\geq 5.4\%$  (最大10分位群)に関係した。

【結論】日本人成人において、ビリルビンはHbA1Cに独立に関係した。

【臨床的示唆】非糖尿病成人におけるHbA1Cと心臓血管病との関係に、ビリルビンが関与している可能性が示唆された。

#### 2 産褥期に発症したタコツボ型心筋症の1例

飛田 一樹・小田 弘隆・大久保健志  
佐藤 迪夫・池上龍太郎・小林 剛  
保坂 幸男・土田 圭一・尾崎 和幸  
高橋 和義・三井田 努

新潟市民病院循環器内科

症例は30歳代、女性。既往歴は妊娠糖尿病。発症11日前、骨盤位の切迫早産にて、当院産科緊急入院。4日後、絨毛膜下血腫による貧血進行あり、緊急帝王切開術施行。術後は止血目的にエルゴメトリンを持続点滴としていた。術後7日目の午前に、子宮内血腫を認め、凝血を搔爬した。同日21時に突然の広範な前胸部痛を認めた。CTで肺塞栓症を否定し、心エコーにてタコツボ型心筋症を疑った。低容量ヘパリン持続点滴にて経過観察を行い、左室壁運動の改善を確認した。心臓カテーテル検査は施行せず、外来にて経過観察中である。

周産期にタコツボ型心筋症を発症する症例報告は散見されている。身体的、精神的ストレス以外に、周産期に固有な因子が関与しているかどうかは、今後の検討が必要である。

#### 3 たこつぼ心筋症の急性期に一過性冠動脈閉塞を合併した2症例

山口 峻介・星野 虎生・小黒 武雄  
中山 雅文・長尾 智美・斉藤 淳志  
布施 公一・藤田 聡・池田 佳生  
北澤 仁・高橋 稔・佐藤 政仁  
岡部 正明

立川綜合病院循環器内科

〔症例1〕40代、女性。平成16年10月23日の中越地震以降、避難所にて生活をしていましたが、胸